工高タイムス

北海道旭川工業高等学校新聞局
〒078-8804
北海道旭川市緑が丘東4条1丁目1－1
発行人（局長）
村岡　良祐
（工業化学科3年）

特集 18歳選挙権

7日は旭川市長選挙

76%が「投票する」

旭川市長選挙と旭川市議会議員補欠選挙が9月7日に行なわれる。新聞局では旭工3年生が「18歳選挙権」を行使するかどうか、8月22、25日にアンケートを行なった。

9月7日の旭川市長選挙等に選挙権があるのは平成19年9月8日までに生まれ、5月30日以前から旭川市民となっている人だ。3年生の回答者212人のうち有権者は75人で35・4%だった。選挙権がなかったのは「旭川市民で18歳未満」が107人で50・5%、「旭川市民ではない」人が30人で14・2%だった。

旭川市の有権者は75人のうち投票すると答えたのは57人で76・0%である。7月の参議院議員選挙の調査では70%だったので、6ポイントアップしている。これは旭川市長が身近な存在で、直接生活に影響するためだと考えられる。

内訳は有権者75人の中で、当日投票に行く予定の人は41人で54・7%、期日前投票に行く予定の人は15人で20・0%。当日か期日前いずれかに投票に行く予定の人が1人で1・3%。行かない人は17人で22・7%、無回答が1人で1・3%だった。

選挙権はあるが、投票に行かない一番の理由は「用事がある」ためが7人で41・2%。次に多かった「関心がない」が6人で35・3%、「誰がなっても変わらないと思う」が2人で11・8%と続く。「その他」が1人で5・9%、無回答が1人で5・9%だった。

7日に予定のある人は9月1～6日まで期日前投票をフィールル旭川などで行なうことができる。

「10代の投票率が高くなると社会や政治は変わるか」という質問に対して「はい」が124人で58・5%、前回の調査より4ポイントアップしている。「いいえ」が32人で15・1%、「分からない」が55人で25・9%、無回答が1人で0・5%だった。

3年生18歳選挙権アンケート結果

実施日：8月22、25日
対象者：3年生212人（当日欠席を除く）
回答者：212人　回収率：100%

市長選等の選挙権はあるか？

投票に行くか？

10代の投票率が高くなると社会や政治は変わるか？

大学の学費減を

安心して暮らせる政策

阪口翔君（化3）は「政治の話題が難しく感じるために、若者が政治に関心を持てないのだと思う。学校で日常に関わるところから学べるようにするべき。投票率を上げるために投票所を増やしたり、投票した人に向けての特典などを用意して投票のメリットを増やすと良い。教育費の負担を減らし、若者や子育てをしている世代への支援を増やしてほしい。若者が意見を話せる場を設けるのが大切」と話した。

M君（建3）は「関心を持つには学校で政治についてさらに分かりやすく教えたり、手軽に政治の説明を聞けるようになると良い。スマートフォンやインターネットで投票できるようになると投票率が上がると思う。奨学金制度を見直したり、大学や専門学校の学費をさらに安くしてほしい」と語った。

佐藤佑樹君（土3）は「SNSで選挙についての情報を発信して、選挙活動を広めると関心が持てると思う。投票に行く若者が周りの人たちに選挙の話をして、身近な人から投票に行く人を増やすことが大切」と話した。

岡林那弥君（電3）は「若者に伝わりやすい方法や言葉で説明をする必要がある。投票に気軽に行けるようになったら投票率は上がると思う」と語った。

千葉陽仁君（情3）は「より大勢の人の目につく場所に政治に関連するものを設置すれば興味を持つ人が増えると思う。物価が高いので経済問題を根本的に解決する必要がある。安心して暮らせる政策をしてほしい」と話した。

W君（機3）は「義務教育から政治の内容を授業に取り入れると良い。選挙の必要性を伝えると投票率が上がると思う。公務員の給料や残業時間などを見直す制度がほしい」と語った。

投票で地場産品ゲット

今回の選挙でも選挙割（特典）が行なわれる。

投票所にある「来場カード」と13～15日に旭川駅前などの食べマルシェ会場でキャッシュレス決済した「レシート」を15日13時に会場の引換場所に持っていくと先着150人に旭川の地場産品がもらえる。

石井さんの作品「スカート翻して」

高文連上川支部写真展・研究大会の審査会が8月21日に富良野高校で行なわれ、石井琉結さん（機3）の「スカート翻して」が入選した。撮影場所は河川敷の桜並木。太陽の光の入り方が複雑な見本林や川も近くにあり、様々な場所で撮影できるので選んだ。

文部写真展

石井さんの作品が入選

「努力が報われた」

石井さんは「3年間スマートフォンを使って撮影し、努力してきたことが報われたようでとてもうれしかった。よい瞬間をとらえるのに、何百枚も撮影し苦労した。日の入りで空が最もオレンジ色になる時間帯を狙った。全体的に暖かい色にし、全身や腕を使って大きく回ってもらい、服の流動感が伝わるように撮影した。今後はスマートフォンで一眼レフカメラに負けないような風景写真を撮っていきたい」と語った。

工具箱

約一か月の夏休み中に美瑛町の祖父母の家へ行ったり、友達が私の家に遊びにきたりした。一番印象に残っているのは、買い物に行ったときに中学時代の友達と会ったことだ。偶然だったためお互いにびっくりした。場所を変えて1、2時間ぐらい話をし、また遊ぶ約束をした▼夏休みが終わり、就職に向けての準備が本格的に始まった。面接練習と就職試験の勉強をしている▼履歴書は夏休み中に終わらせた。履歴書には志望理由、持っている資格などを書いた。履歴書を書いて思ったことは資格をたくさん持っている方が良いということだ。少ないと資格の欄が余ってしまうので早めにとれる資格はとっておいた方がよい。また、志望理由の文章は科長、国語の教科担任、担任の3人に確認をしてもらい早めに完成したのでよかった▼私が受ける会社の試験には国語、数学、作文の三つがある。数学が苦手なので重点的に勉強している。国語は文章問題や漢字の読み書きをしている。作文はよく出るテーマや書き方を調べて実際に書いている。文章を書くのは得意だが、文字数が足りなかったりするのでもっと練習しようと思う▼面接練習は先生方や友達にお願いする。志望理由や自己PRなどを考えた。私は人と話すのが苦手なので面接本番でハキハキと言えるように練習をする。就職試験までもうすぐなので受かるように頑張って準備を進めていく。（化3佐々木）

水泳全道

鈴木君 遠泳でも全国
昨年のリベンジ果たす

鈴木広大君（電2）は8月24日に行なわれた第6回屈斜路湖オープンウォータースイミング大会に出場し、5㎞遠泳で1位になった。天候の影響で3・4㎞に短縮された。

鈴木君は「昨年は1秒差で2位だったが今年は反省を生かし1位を取れた。湖での練習はできなかったので、室内プールで距離を伸ばし体力をつけた。本番は波が強く水を飲んでしまい、普段の泳ぎができなかった。全国大会でも1位を取りたい」と話した。

全国大会は9月27日に千葉県で行なわれる。

陸上部

5人が全道へ
自分の走りができた

陸上部は8月23～24日に花咲スポーツ公園陸上競技場で行われた高体連新人陸上競技大会旭川支部予選会に出場し、5人が全道大会出場を決めた。全道大会は9月24～26日に帯広の森陸上競技場で行なわれる。

砲丸投で2位の沼岡芯喜君（土2）は「大会前にフォームを確認し自分の力で2位になれた。練習不足で記録が落ちたのが反省点」と話し、全道大会に向けて「足の筋力トレーニングを頑張りたい。目標は12ｍ投げて、トップ6に入ること」と語った。

5000ｍで2位と1500ｍで3位になった村上蒼空君（電1）は「速い選手がいた中、最後まで自分の走りができて良かった。毎日朝練習をし、部での練習もしっかりしたので500ｍで2位になれた。練習不足でタイムが落ちてしまったのが反省点」と話し、全道大会に向けて「変化走を多く練習し、全道の速い人についていけるようにする。目標は1500ｍと500ｍで8位入賞すること」と語った。

他の全道大会出場者は次の通り。

山田夕煌君（建2）　ハンマー投3位
川島　駿君（電2）　円盤投5位
瀧田來愛君（機1）　やり投5位

岩﨑君（左）と古屋君のペア

ソフトテニス部

古屋・岩﨑ペア4強に
練習の成果を発揮

ソフトテニス部は8月23～24日に花咲テニスコートで行なわれた第55回北海道高等学校新人ソフトテニス選手権大会旭川地区予選会に出場し、古屋大地君（機2）・岩﨑駿介君（機1）ペアがベスト4に入り、9月13～14日に帯広市で行なわれる全道大会出場を決めた。

古屋君は「高校で初めてベスト4に入れてうれしかった。作戦を変えたり、ペアと声を掛け合ったりしたことと強いボールでカウンターを打てるように意識して練習した。その成果を発揮できてよかった。ファーストサーブの成功率が上がり、苦手だったバックハンドも向上できた。改善点としては中ロブのコントールをよくしたい」と語った。

岩﨑君は「ベスト4に入れてうれしかった。当日は風が強く、本来の力が出せなかった。日頃からストローク練習して、後ろから相手が取りにくい位置にボールを落とすことを意識した。周りからのアドバイスのおかげでベスト4に入れたと思うので、今後は自分で考えながら勝っていきたい」と話した。

ビーチバレー全国大会

隙を狙い得点決める
一つ一つを丁寧に

バレーボール部は8月8～10日に大阪府で行なわれた第24回全日本ビーチバレーボール高等学校選手権大会に宮本徒夢君（土3）と今琉聖君（化2）が出場した。

宮本君は「全道大会では風の影響を受けてうまくプレーができなかったが、今回は風があまりなくサーブレシーブをしっかりと上げられて良かった。2本目のトスが攻撃までつなげられなかったのとサーブミスが多かった。ミスをしても次に良いプレーをできるように意識を切り替えた。練習ではサーブレシーブと、届かないボールでも粘り強く取るようにした。次の大会ではペアが変わるが、することは一緒なので一つ一つを丁寧にしていきたい」と話した。

今君は「相手は経験豊富で強かった。ラリー中に隙を狙い点数を入れることができた。トスを前に出してしまって相方が返せなかったり、ブロックの上から返されて、自分が相方の視界を遮りボールが取れなかったりした。砂の質が練習とは違い苦戦した。練習ではDOTS（ドッツ）の選手が来てくれ、スパイクの練習をした」と語った。

特集 戦後80年②

敵の照明弾が上がる
戦死者から衣服を奪う

（第523号からの続き）

日が暮れる頃戦闘はやんだ。中隊が集結してみると銃が四、五丁余っている。どうやら朝鮮兵のものらしい。中隊にはかなりの朝鮮兵がいた。戦闘と同時にほとんど逃げたり隠れたりしていた。「銃を捨てるな。弾を大事にしろ」と小隊長をしていたY伍長が叫んだ。また行軍隊形に戻りようやく我にかえった頃、皆尻を出して「ピーピー」やりだした。戦闘で忘れていた排せつ物が一気に噴出した。同時に空腹も感じた。夜になると敵の照明弾が上がった。花火のようだ。伏せる。前の兵隊の帯剣につかまり、その間眠をつむる。とにかく眠い。前の方から順に起きる。また照明弾が上がる。また伏せる。戦場から離れるまでは寝ることができなかった。重傷の担架からもれる断末魔のうめき。寝ながら歩いていた。後ろから銃で叩かれた。ハッと眼がさめると隊列を離れかかっていた。

行軍は続いた。「鞭声粛粛」そんな感じで夜の川を渡る。水は冷たく腹は冷えた。渡りながらの放尿を覚える。一夜満人部落に泊まった。軍装のまますし詰めになって寝た。翌朝満人がわめいていた。誰かが紙を見せて「これを持って役場へ行けば金をくれるから」という意味のことをいうのだが、満人はもう紙幣の通用しないことを知っていた。戦争は無抵抗の満人をも巻き込んでしまう。兵隊はポケットに岩塩を詰めた。岩塩は満人の貴重品であったが、私にとってもこれからの体を支える貴重なものになった。

行軍の落後は死

山中の難行軍は続いた。落後は死を意味した。もう食うものは何もなかった。岩塩をなめ泥水をすすった。投降ビラが空からまかれていた。日本の降伏を書いてあるが、それにしても手回しがよい。24日早朝イントルに着いた。四角く城壁で囲んだ蒙古族の集落であった。皆逃げていなかったが黒い豚が残っていた。何日ぶりかで食べる豚汁のうまいこと、夢中で食べた。昼も豚汁が出た。まだうまく食べた。晩も豚汁が出た。さすがに白い脂身のところは飽きてもう食えなかった。しかし他に何も食うものはなかった。

師団が集結してきた。ソ連軍が追いかけてくるという。またもや「タコつぼ（ざんごう）」掘り、明日はいよいよ決戦というとき、軍使を乗せた小型機が強行着陸して停戦になった。8月29日である。

戦争は終わった。死線は越えた。これで日本に帰れると思った。が、これは序章に過ぎなかった。やがてシベリアに送られ悲惨な地獄図絵が繰り広げられようとは、神ならぬ身の知るよしもなかった。

シベリアへ移送

昭和20年8月29日北満のイントルにて停戦、そして武装解除。銃は捨てたが階級は残った。

丸腰の集団は少数のソ連兵に囲まれまたもや行軍の日々が続いた。満人がクワや棒を持って追いかけてくる。逃げるように急いだ。興安を経てトボスに9月12日着いた。行軍中死臭の漂う広野も歩かされた。こんな広野で戦車に出会ったらひとたまりもない。

トボスには一か月ほどいたが北満の秋はアッという間に過ぎた。戦闘したままの夏服は寒かった。ここは砲兵部隊のいた所だがコンクリートの大きな壕に兵隊が二人戦死していた。新しい冬の軍服を着ていた。欲しかったが勇気がなかった。翌日見にいったら軍服は剥がされていた。また二、三日後見に行くとシャツももも脱がされていた。さらに数日後、ふんどしもなくなっていた。死体はそのまま腐乱していった。

貨車で小民屯に着く。帰国だと喜んだのはつかの間であった。ここで皆防寒外とうなどをもらった。シベリアで役に立ちそうもない者はソ連側でハネた。ハネられた兵隊には何も当らなかった。私はハネられた。仲間が7、8人いてこれからどうなるだろうと心配した。興安のソ連病院かチチハルの陸軍病院に連れて行くらしいとうわさした。しかし当てにならない。邪魔になるからと殺場で「ズドン」とやるかもしれない。そこへ伝令が走ってきて「誰か志願する者はいないか。員数が一人足りないんだが」といった。私は即座に手を上げた。大きな賭けだがもう夜は寒くて寝られなかった。明日の命より今日の防寒外とうが欲しかった。

（次号へ続く）